JR東日本ニュース

２０２６年１１月５日
東日本旅客鉄道株式会社

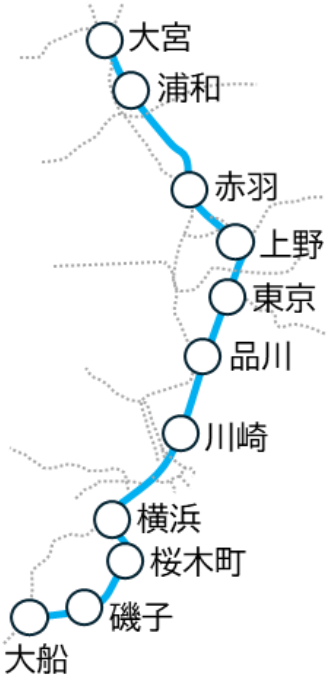
京浜東北・根岸線における自動列車運転装置（ATO）の使用開始について

〇JR 東日本では、鉄道の持続的な成長を目指し、安全やサービス品質の向上に加え保守・運行・環境などさまざまな構造改革や技術開発に力を入れています。
〇その一環として、京浜東北・根岸線の大宮～大船駅間を走行する E233 系に、自動列車運転装置(以下、ATO)を導入・使用開始いたします。
〇今回導入する ATO は、乗務員が出発ボタンを押下することで、自動的に加速・減速・定位置停止制御を行います。システムで加減速を調整するため、安定性の向上に加え、省エネかつ一定の乗り心地となります。

１．使用開始時期

2026 年 12 月 19 日(土) 始発より順次使用開始
※使用開始に向け、11 月から一部の営業列車では ATO を使用した習熟訓練を開始します。

京浜東北・根岸線 E233 系



２．導入区間と導入車両

【区間】京浜東北・根岸線 大宮～大船駅間
【車両】京浜東北・根岸線 E233 系(10 両編成)
※横浜線からの直通運転列車については、
2025 年 11 月 22 日（土）始発より使用開始しています。

３．ATO による運転について

⑴ 発車時
地上設備から列車に対して「出発可能」の信号が送られます。これを受けて乗務員が出発ボタンを操作することにより発車します。

⑵ 走行時
走行時、ATO は自動で勾配や曲線、制限速度を考慮して最適な加減速を行います。

⑶ 停車時
駅の停止位置に向けて自動で減速し、停止位置（前後数 10cm 以内の範囲）に停車します。
停車後、乗務員の操作によりドアを開扉、お客さまの乗降後、乗務員がドアを閉扉します。

【参考】**京浜東北・根岸線に導入する ATO について**

今回、自動列車制御装置（ATC）と自動列車運転装置（ATO）の２つのシステムを組み合わせることで、制限速度を超えずに自動で駅間を走行し、駅の停止位置に停車させる運転方法へ変更します。以下、各システムの概要を紹介します。

■自動列車制御装置(ATC：Automatic　Train　Control)

列車が制限速度を自動的に守るためのシステムです。車両に搭載している装置が、線路に流れる信号情報から制限速度を認識し、実際の速度が制限速度を超えないようにしています。万が一、制限速度を超えた場合、自動的にブレーキが動作する仕組みとなっています。

■自動列車運転装置(ATO：Automatic　Train　Operation)

乗務員が運転台にある出発ボタンを操作することにより、列車が起動し、自動で次の駅まで加速や惰行、減速を行い、次の駅の停止位置に停車させるシステムです。この間、基本的には乗務員による加減速の調整はありません。

京浜東北・根岸線 E233 系運転台

出発ボタン

※画像・イラストはイメージです。